

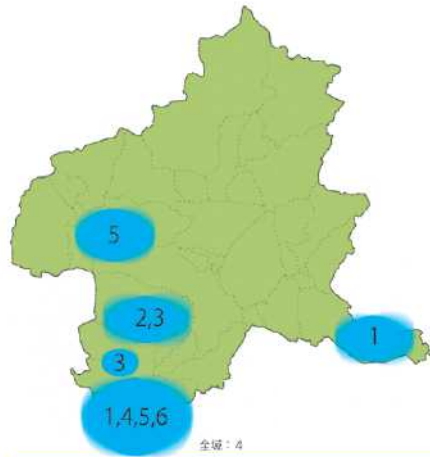
群馬県立自然史博物館による総合学術調査

木村敏之（群馬県立自然史博物館）

はじめに

群馬県立自然史博物館では県内の自然及び自然と人間との関わりに関する研究の中心施設となるべく、群馬県内の自然に関連した総合調査研究活動を実施している。

平成9年度以降、3カ年計画で県内地域の調査を実施し、各調査の結果についてまとめた報告書を発行している。これらの調査を通して県内の自然に関する情報及び標本資料を系統的・総合的に収集・蓄積し、これらから得られたデータの調査研究への活用や次代に伝えていくことを目的としている。



第6次調査 (2011～2013)

- 上野村地域
- ・地質・岩石・化石
 - ・哺乳類
 - ・菌類
 - ・軟体動物
 - ・両生・爬虫類

これまで実施した調査地域および調査項目

第1次調査 (1996～1998)

- 邑楽・館林地域
- ・水質
 - ・植物プランクトン
 - ・動物プランクトン
 - ・底生動物
 - ・魚類、エビ・カニ類
 - ・高等植物
- 奥多野地域
- ・地質
 - ・洞穴
 - ・化石
 - ・両生類
 - ・水生昆虫

第2次調査 (1999～2001)

- 人里及び周辺地生物調査
- ・植生・植物相
 - ・土壌動物
 - ・両生・爬虫類、水生動物
 - ・富岡層群の地質・古生物学的調査
 - ・化石
- (軟体動物、群蝸類、束粒類、クジラ類、鳥類、甲殻類、軟体魚類)
- ・地質

第3次調査 (2002～2004)

- 四ツ又山・鹿岳地域
- ・地質
 - ・植生・植物相
 - ・小型哺乳類
 - ・両生・爬虫類
 - ・水生昆虫
 - ・富岡層群の古生物学的研究
 - ・化石
- (鳥類、クジラ類、軟体動物、爬虫類、魚類、軟体魚類)

第4次調査 (2005～2007)

- 外来生物調査
- ・陸棲哺乳類
 - ・カミツキガメ
 - ・カワヒバリガイ
 - ・カブトエビ
 - ・植物
 - ・魚類
 - ・両生・爬虫類
 - ・山中層群の古生物学的研究
 - ・化石
- (甲殻類、恐竜類)
- 利根川・神流川河川隣調査

第5次調査 (2008～2010)

- 長野原町・東吾妻町
- ・小型哺乳類
 - ・両生・爬虫類
 - ・昆虫類
 - ・貝類
 - ・高等植物
 - ・蘚苔類
 - ・菌類
 - ・山中層群の古生物学的研究
 - ・化石
- (軟体魚類、硬骨魚類、カメ類、軟体動物、植物)

第6次調査について

調査地概要

平成23年度より群馬県多野郡上野村を調査地として設定し、動・植物、菌類、古生物及び地質に関する調査を行っている。

上野村は群馬県の西南部に位置し、東部は群馬県神流町、西部は長野県佐久穂町、南部は埼玉県秩父市、北部は群馬県南牧村と隣接している。村域周辺は、御荷鈴荒船連山や三国連山など1,000～2,000m級の山々が連なり、険しい山野が総面積181.86km²の90%以上を占めている。また、上野村の94%が森林であり、スギ・ヒノキなどの針葉樹、ブナ・ミズメなどの広葉樹の他、群馬県を北限分布とするシオジの原生林などがみられ多様な森林環境を有する。



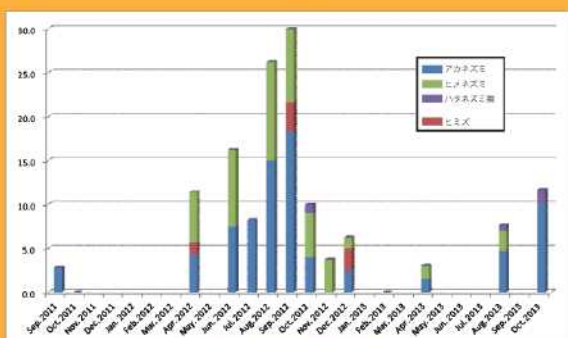
調査地域および方法 (小型哺乳類調査)

調査地域内の全域で総計57地点において調査を実施し、調査にはシャーマントラップを使用した。いずれも1晩のみの調査で捕獲された個体のうち死亡個体は標本化した。



調査結果

ネズミ類112個体及びモグラ類(ヒミズ)4個体の合計116個体が捕獲された。捕獲された個体の内訳では、アカネズミが最も多く、全体の59%をしめる。次いで捕獲個体数が多いのがヒメネズミで全体の34%である。



群馬県では平成18年度にネズミ類の大量発生があり、その後当館では県内のいくつかの地点でネズミ類の個体群動態について調査を行ってきた。上野村地域でもいくつかの調査地点で2012～2013年度に複数回の捕獲調査を実施した。その結果、上野村南西部の野栗沢周辺及び上野村北部の調査地点では2012年に比較して、顕著に2013年の捕獲個体数の減少傾向がいずれの調査地点でも見られた。ただし上野村南西部では、2012年に比較して2013年はほぼ同じか、むしろ捕獲率の増加が見られた。現状では限られた捕獲個体数・捕獲地点での調査結果であるため十分な議論を行うことはできないが、ネズミ類の個体群動態には顕著な変動が見られるが、そのパターンやより多くのデータの蓄積が必要と思われる。